



「リハビリテーション部における インシデント・アクシデント 報告の傾向と取り組み」院外発表

平成 26 年 6 月 28 日（土）、富山国際会議場にて「第 14 回富山県公的病院安全医療研究大会」が開催されました。リハビリテーション部の山川雄亮作業療法士さんがリハビリテーション部のインシデント・アクシデント報告から分析を加え現状と課題を発表しました。

当日会場は、県内各地より 19 演題の発表があり、一般参加した職員からは、発生した事例から具体的な業務改善に取り組んだ実践報告が多く、参考になったなど感想が届いています。

医療安全コラム

「医療安全文化は浸透するか」

医療安全小委員会 副委員長 福田 昭宏

昨今、医療の現場における安全管理の重要性が広く認識され、多くの病医院にて積極的な取り組みを行う施設が増えています。これは、社会における関心の高まりを背景にあらゆる分野において、安全を確保し安心できる環境を望む人類の欲求に基づく、安全文化の確立を目指して行こうというごく普通の考え方とされます。それでは安全を確立するためにはどうすれば良いかという単純な疑問が生じます。国語辞典によれば、『安全とは元来、危険や災害などによってそこなわれるおそれがない安らかな状態をいうが、生活環境が複雑化し、予測しがたいさまざまな危険性の内在している今日、安全が積極的な行動の目標として重要な意味をもちつつある。』と記載してあります。すでに安全は、積極的な行動目標となっています。さて、安全を確保するためには、確認して実行するという至って簡単な作業が基本ですが、人間には思い込みや錯覚、勘違いなど複雑な心理状態を背景に、このごく簡単な作業に間違いを生じてしまうことが知られています。これを克服するために、さまざまな手法が提唱されています。先日の講演にもあったチーム STEPPS もその一つです。さて、当院は来月に病院機能評価の受審いたしますが、機能評価の概要を見てもみると、例えば指示出し、指示受け、実施そして実施確認においては、そのシステムが安全で確実に実施できているかを評価しようとするものです。このようにあたりまえに行われる日常業務が、いかに安全に出来るシステムになっているかを評価し、さまざまな業務における安全が評価の主となっていることに気づきます。医療現場における安全文化の確立は、ゴール無き迷路を進み続けるようなものかもしれませんが、進み続けた先には、『安心』という大切なものがあり、全職員が取り組まなければならないこととあらためて実感いたしました。引き続き安全文化の確立にご協力をお願いいたします。

平成 26 年度 第 2 回 全職員対象 医療安全研修会

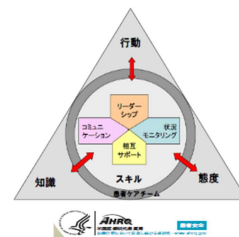
院内 LAN 及び DVD 貸出による受講受付中（9 月 5 日まで）

平成 26 年 7 月 29 日（火）院内 6 階多目的ホールにて、
富山大学附属病院 看護師長 山本 陽子 先生に、ご講演いただきました。

「チーム STEPPS—エビデンスに基づいたチームトレーニング—」

**チーム STEPPS は、明らかな有用性が確認され、現在では
世界標準の患者安全推進ツールとなっているチームワーク改善手法です。**

コミュニケーションをとって安全・安心な医療現場を皆さんの手で！！



★ 「 看護部 安全リンク会 の取り組み 」

今年度は 4 つの目標を掲げて活動しています。

そのうち、「転倒予防に向けた取り組み」について紹介します。

- ◎ 入院時に、転倒アセスメントスコアシートで危険度を判定し、患者さんの個別背景に対して、看護計画を立案し、具体的な防止策を行っています。
- ◎ 転倒リスクに応じた、説明パンフレットを見直し作成しました。
8 月下旬から新しいパンフレット運用し、患者さんやご家族の方にわかりやすく説明を行い、転倒予防に参加していただく予定です。
また、看護部では、今年度から患者さんやご家族の要望を取り入れた患者参画型の看護計画を開始しています。
- 院内では、そのほかに【入院のご案内】や【医療安全パンフレット】など転倒予防のページを設け、患者さん・ご家族の協力を求めています。

転倒予防対策の
安全確認ラウンドも
計画中です。



患者さんと共に
転倒予防を

★ 「より安全な輸血をめざして☆☆

輸血検査についてのお願い」

手術などで、輸血予定がある場合には、予定日 2 日前までに T&S 検査（血液型・不規則抗体）、交差試験を行うことで、より安全な輸血の準備ができます。

依頼方法：予定日 2 日前までに T&S と交差試験をオーダーし交差血を提出して下さい。

目的：最近、不規則抗体をお持ちの患者様がおられ、その同定に 1 日以上、要する場合があります。安全な血液を日赤血液センターに依頼確保するには 2 日前までに済ませることが必要です。尚、不規則抗体が同定された場合、患者様のカルテを開いた時に注意喚起として **輸血：○抗体(+)** 輸血の申込みは早めをお願いします。
が、表示されるようになりますので、確認しましょう。